
銀髪狼と天然?サンタクロース

逃亡日記

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

銀髪狼と天然？サンタクロース

【Nコード】

N8195Y

【作者名】

逃亡日記

【あらすじ】

銀髪の狼と天然？のサンタクロースの出会い。

赤の破壊者の短編小説版です。

赤の破壊者もよろしく願います！！

（前書き）

赤の破壊者の短編です。

もつ少しで出てくるキャラの出会いの短編編です。

”一人”…そうだ俺は、一人だ。
何をしたって一人…。

パチッ…。

「ん？…。」

洞窟の中で寝ている少年が目を覚ます。

「…寝ていたか…。」

少年の名前は『銀狼^{ぎんろう}』

「…。」

銀狼は洞窟を出て、歩き出す。

バキッ！バキッバキッ！！

「キャアア！！」

「！？…。」

上から少女が落ちてきた。

「いったあー…。」

「…。」

「ん？…。」

銀狼の目の前にはサンタの格好をした少女が落ちてきた。

「あつ…耳？尻尾？」

「！？…。」

『化け物！！』

「…。」

銀狼は少女から目をそらした。

「凄い！」

「えっ？…。」

「カッコイイのかな？可愛い！！」「ニコッ
ドキッ！」

「！？…。」

銀狼は頬を赤く染める。

「あっ…私は、冬桜雪乃とうおうゆきなよろしくね」「ニコッ

「俺は…銀狼。」

雪乃はとても笑う。

「で、何でお前ヒトみたいなの、人間がここに居る？」

「…実は…。」

説明中。

「はあ！？人間の子供ひとのこにプレゼントしているうちに馬車から落ちた
！？」

「うん。だけど大丈夫だよ。迎えに着てくれるよ」「ニコッ

「……。」

なんなんだ？こいつ…。

「…俺はもう行く。」
パシッ

「！？…。」

雪乃が銀狼の手をつかむ。

「…なんだ？…。」

「一人にしないでくださいよお…。」

ドキッ！！

「！？…。」

銀狼は顔を真っ赤にする。

雪乃は涙目だった。

「俺にどうしろと？」

「…一緒に行動していい？」

「いつまで？」

「迎えが来るまで」ニコッ

「分かったよ…。」

「ありがとう!!」

「!?!?。」

雪乃が銀狼に抱きつく。

こうして二人はいろいろな出会いが待ち受けているのであった。

おわり。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8195y/>

銀髪狼と天然?サンタクロース

2011年11月24日12時50分発行